の「白扇」は秩父山系の伏流水を使い、まろやかな味わいが特徴。金賞受賞酒の大吟醸は高級酒米の山田錦を使い、蔵の技術を凝縮させ、フルーティーな酒に仕上げたという。

酒造りの中心を担うのは、20～60代の社員杜氏（とうじ）5人。ちょうど世代交代の時期に差し掛かっており、営業部長の腰塚久夫さん（56）は「ぜひ」と言う。

今回の鑑評会には全国から852点が出品され、味や香りが審査された。金賞は222点で、県内では藤崎摠兵衛商店と寒梅酒造（久喜市）、横田酒造（行田市）、文楽（上尾市）の4蔵が受賞している。

「白扇　大吟醸　金賞受賞酒」の問い合わせは、藤崎摠兵衛商店（☎048・581・1757）へ。（橋本浩佑）

高麗郡の歴史実感

日高で講演会　高句麗との交流語る

高麗郡建郡1300年についてトークセッションするパネリスト＝日高市のひだかアリーナ

来年、高麗郡建郡1300年を迎えるのを記念して日高市などが主催し、埼玉新聞社が後援する公開歴史講演会が同市文化体育館・ひだかアリーナで約600人が参加して開かれた。建郡の背景として日本が中国や朝鮮半島とどのような交流があり、7世紀の東アジアの情勢がどのように変化していったかを中心に話し合った。

第1部では「高麗郡建郡と東アジアの交流」と題して東京大学大学院の佐藤信教授が講演した。佐藤教授は高麗郡誕生までの背景には激動の東アジア情勢の変化があったことを指摘。高句麗が唐・新羅連合軍に攻められて滅亡する2年前の666年に玄武若光（後の高麗郡建郡の中心人物・高麗王若光）が高句麗の使者として、日本の朝廷のもとへ援軍を求めるためやって来たこと。その後、さらに多くの高句麗人が海を渡ってやって来たことを説明した。

佐藤教授は「そのころの日本は豪族連合から中央集権国家へと大きく変わろうとしていた。列島各地の地方豪族が渡来人たちとどのような関係を結んだかが注目される」と話した。

第2部のトークセッションではコーディネーターに高麗浪漫学会の中野高行理事、パネリストに佐藤教授、国士舘大学の須田勉教授、荒井秀規元明治大学講師を迎え、国分寺や高麗寺との関連寺院や瓦窯、朝廷以外のさまざまな立場での高句麗との交流などについて意見を述べた。

参加者からは「この地が誕生するまでに、深い歴史があったことをあらためて実感した」との声が聞かれた。（広川二六）

小林誠氏が反物質語る

城西大、坂戸で講演会

城西大学（水田宗子理事長）は、坂戸市のキャンパスでノーベル物理学賞を受賞した小林誠・日本学術振興会学術システム研究センター所長による講演会「反物質―素粒子から宇宙まで」を開催。地元住民や教職員、学生ら約600人が聴き入った。

同大は創立50周年記念事業の一環で、内外から優れた研究業績を残した学者らを招いて人材を育成する水田三喜男記念「グローバル・レクチャー1」シリーズを展開。小林氏は、マレーシアのマハティール元首相、米ハーバード大学のヴォーゲル名誉教授に次いで3人目の登壇となった。

小野元之氏と対談する小林誠氏（左）

小林氏は素粒子理論を専門とする理論物理学者で、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所の所長などを歴任。2008年、益川敏英氏や故南部陽一郎氏とともにノーベル物理学賞を受賞した。

小林氏は「反物質の存在は今の宇宙にもある」と説明した。

歴史に触れ、象となった「れ」を説明した。

元文科省事大学院センタ起事との対談氏はノーベルピソードも披

秋に「幻の茶

茶の木の苗に水やりする子どもたち＝入間市の町屋通り商店街

狭山茶の主産地である入間市で、ようやく茶農家が茶の木の手入れを始めた。植栽はパケイトウやブランスノーサンゴとともに植えた。茶の木は盆栽程度の大きさになるよう手入れをする。秋には茶の花が咲く予定。

同商店街の鈴木眞一専務理事は「茶の花を咲かせるのが楽しみ。商店街全体で取り組むことで、商店街の連帯を強め、住みよいまちづくりの一助にしたい」と話している。（広川二六）

商品券

所沢商工会
一般用と3
「プレミア
商品券」の
み受け付け
期間は31日
発行総額
プレミア付
一般用は一万

バッグと靴の専門店
bag